

(仮称) 神栖特別支援学校新築工事基本・実施設計委託に係る
公募型プロポーザル審査報告書

1 審査結果

最優秀案の提案者（設計候補者）：横須賀・河野建築関連業務共同企業体
優 秀 案 の 提 案 者 ：若柳・大山建築関連業務共同企業体

2 審査経緯

(仮称) 神栖特別支援学校新築工事基本・実施設計委託に係る公募型プロポーザルは、茨城県建設コンサルタント業務等入札参加資格者名簿に登録された県内の一級建築士事務所2者による建築関連業務共同企業体（以下「JV」という。）を対象とし、代表構成員については、本業務に配置を予定する管理技術者又は建築分野の主任担当技術者が設計業務^(※)の実績を有すること等を参加資格要件として公募したところ、5JVから参加表明がありました。各者とも参加資格要件を満たすことが確認できたため、技術提案書の提出を要請し、5JVすべてから技術提案書が提出されました。

特別審査委員会は、1次審査及び2次審査を実施しました。1次審査は技術提案書の評価を行い、2次審査のヒアリング対象者を選定しました。2次審査においてはヒアリングを含めた評価を行い、最優秀案及び優秀案を特定しました。

※ 設計業務：延べ面積3,600㎡以上の学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校の新築、増築又は改築（増築の場合は、当該増築面積が3,600㎡以上のものに限る。）の設計業務

○ 最優秀案選定までの経緯

特別審査委員会では、審査の公正を期すため、提案者の名を伏せ、AからEの整理番号を表示した5JVの技術提案書（様式6）により審査を行いました。

(1) 第1次（一次評価）プロポーザル特別審査委員会（1次審査）

日 時： 令和5年12月8日（金） 午後1時30分～午後4時00分

場 所： 茨城県庁舎行政棟11階 共用会議室1107

出席委員数： 5名（全員）

1 次 審 査： まず各委員が全提案について「(仮称) 神栖特別支援学校新築工事基本・実施設計プロポーザル方式の説明書」に示した3つの課題（技術提案を求めるテーマ）等の主要な観点を踏まえて総合評価を行いました。その後、各委員がそれぞれの提案についての所見を述べ合い、各委員がそれぞれの提案に対する評価点、疑問点などを共有して理解を深め、ヒアリング対象者選出の討議を行いました。その結果、A、B及びDの3案の提案者を2次審査のヒアリング対象者として選定しました。

3つの課題

【課題①】 配置・平面計画について

- 将来の定員増減などに適切に対応できるよう可変性の高い計画とすること。
- 運動会などの催事における隣接する神栖市若松運動場の利用や、今回整備する体育館の地域開放などを考慮した計画とすること。
- 生徒一人一人の多様な心身特性を踏まえて、安全で、使いやすく、落ち着いた学習空間をつくること。

【課題②】 意匠・構造計画について

- 海岸線に近接するなど本計画地の豊かな自然景観と調和のとれた外観とするとともに、塩害対策に配慮した計画とすること。
- 換気や通風、日射等を考慮し建物の省エネルギー化を図るとともに、茨城県産木材の積極的な活用など、温室効果ガスの排出削減を図ること。

【課題③】 工期短縮及びコスト縮減について

- 令和9年4月の開校予定を踏まえ、無理のない工期により建設可能な工法等により計画すること。
- 近年の建設コストの上昇を念頭に、工事費が不足することの無いようコスト縮減を図ること。

(2) 最終（二次評価）プロポーザル特別審査委員会（2次審査／ヒアリング）

日 時： 令和5年12月15日（金） 午前10時00分～午後3時00分

場 所： 茨城県庁舎行政棟11階 共用会議室1106

出席委員数： 5名（全員）

2次審査： 各JV15分間のプレゼンテーション、20分間の質疑応答によるヒアリングを行った後に、課題に対する提案及び設計チームとしての取組体制等を比較しながら討議を行い、委員会の総意として最優秀案及び優秀案を選定しました。

3 審査総評

今回の（仮称）神栖特別支援学校におけるプロポーザルは、児童生徒の自立と社会参加を促し、地域における特別支援教育のセンターとしての役割を持った特別支援学校を、神栖市の若松運動場隣接地に新たに誕生させる計画です。また、地元の人々との交流など、地域に根差したこれからの特別支援学校のあり方を問うものでした。

その一方で、「小中高の一体的な学校運営に対する配慮」、「児童生徒の特性を踏まえた安全で負担の少ない動線計画」、「将来の生徒数の変化等に対応したフレキシブルな教室配置」、「スクールバスを始めとする交通計画」など、機能的な側面での計画力・設計力が求められました。こうした課題を共有して貰うため、県では現地説明会や特別支援学校の見学会を開催し、現地の敷地状況や特別支援学校の現状を確認したうえで課題となる点を把握していただくことに心掛けました。結果として、各提案者の皆様には（仮称）神栖特別支援学校設立の思いをくんだ提案をしていただき、心から感謝いたします。

今回の審査委員会においては、1次審査で5案を審査し、3案をヒアリングの伴う2次審査に選出しました。2次審査においては、提案書からだけでは確認の難しい内容について、提案者から直接説明を受けました。限られた時間の中で誠実に対応していただき、審査委員の提案に対する理解を深めることができました。プレゼンテーション後、配置計画の巧みさや、計画全体の完成度から伺える実現可能性に関して、真摯な議論が交わされ、最終的に、最優秀案としてD案を、優秀案としてA案を選定しました。

なお、各提案に対する講評は次のとおりです。

最優秀案 D案 横須賀・河野建築関連業務共同企業体

校舎群をコンパクトに纏めた配置計画はゾーニングが明快で、歩車分離により児童生徒の安全性を確保しつつ、地域開放への対応可能な提案が高く評価されました。また、小中高の各教室がロの字型の回遊動線により緩やかに繋がり、児童生徒の特性を踏まえた安全で負担の少ない動線計画が優れていました。他案にはない「入れ込み指導」や「取り出し指導」といった活動ごとに空間を分けて使用する「構造化」という学習空間（教室）の提案など、学習環境にも積極的に取り組む設計者の姿勢も含めて、審査委員は好感を持って評価しました。

一方で、プレイルームの利用方法、職員室の分散による小中高の連携やトイレの配置数・規模を不安視する意見がありました。こうした課題を今後十分に検討する必要がありますが、全体を通して、この提案者の提案能力を高く評価して最優秀案としました。

優秀案 A案 若柳・大山建築関連業務共同企業体

職員駐車場と来客駐車場を明確に分離し、ピロティを利用した送迎スペースなど児童生徒・来客者の安全性を確保しつつ、利用しやすい提案がされていました。また、地域の交流の場として提案されたカフェは、児童生徒の自立と社会参加を目指すこれからの特別支援学校のあり方を示す案として高く評価されました。

しかしながら、管理諸室のまとまりや教室の配置について、管理上の配慮にもう一工夫が望まれる点や、ピロティにより階高が高くなり児童生徒の日常生活における移動への負担やコスト面で課題が残った点で、最優秀案に及びませんでした。

(以下、整理番号順に記載します。)

B案

メインアプローチとして「ふれあいプロムナード」を中心に据えることにより、各施設への効率的な動線とゾーニングの明確化が図られた計画でした。また、体育館と特別教室群を一体化することにより福祉避難所としての機能を持たせるとともに地域交流の場としての提案も魅力的でした。その一方で、延べ面積が要求基準を1,000㎡以上上回るなどコスト管理の面で不安が残り、上位には選出されませんでした。

C案

小中高の普通教室棟、特別教室棟を独立させ、学校全体に見渡せる位置に職員室を配置した計画でしたが、各施設までのアクセスが雁行し、駐車場を通らないとグラウンドまで行けない動線計画は課題が多く、上位には選出されませんでした。

E案

メイン通路を「ふれあいの路」として独立した7つ教室棟へとつなぐ提案は特徴的であり、審査において注目された案でした。しかし、普通教室をすべて2階に配置した平面計画が、児童生徒の日常生活における安全性や移動への負担という点で審査委員からの共感が得られず、また、建設コストが過大となる懸念もあり、上位には選出されませんでした。

4 おわりに

今回のプロポーザルの評価にあたり、審査委員会として、茨城県教育庁や特別支援学校の関係者から整備に対する思いや考えを伺い、本計画の意義について深く理解するとともに、その思いを提案者にも理解いただけるよう、説明会や特別支援学校の見学会を実施してまいりました。結果として、提案数は多くはなかったものの、いずれも質の高い提案がなされました。これからもより良い施設計画を求めるうえで、今回のような提案の場が継続的に実現することを願います。

本審査結果に基づき、選定された設計者が、県の土木部、教育庁及び特別支援学校の現場関係者と連携を図りながら、提案された技術やアイデアを更に検討し、素晴らしい特別支援学校が実現されることを祈念いたします。

最後に、本プロポーザルに参加していただいた5JVの設計事務所の皆様におかれましては、多大なる熱意を持って技術提案に取り組んでいただいたこと、そして非常に厳しいスケジュールのもとプロポーザル提案書の作成等に時間と労力を割いていただいたことに対して、審査委員一同、心より敬意を表するとともに感謝いたします。今後の皆様の更なる御発展と御活躍をお祈りいたしております。

令和5年12月15日

(仮称) 神栖特別支援学校新築工事基本・実施設計委託

令和5年度土木部プロポーザル特別審査委員会

委員長 熊澤 貴之

委員 椎木 久夫

委員 吉田 友紀子

委員 石上 智子

委員 木村 忠夫